

金沢工藝本

7号別冊

Kanazawa Traditional Arts & Crafts

2008



金沢工芸普及推進協会

金沢工藝本

7号別冊

金沢工芸普及推進協会

【発行・編集】

金沢工芸普及推進協会

〒920-0962 金沢市広坂1-2-25

TEL:076-265-3320 / FAX:076-265-3321

E-mail:info@crafts-hirosaka.jp

http://www.crafts-hirosaka.jp

【編集協力】

協同組合加賀染振興協会・金沢九谷振興協同組合・石川県箔商工業協同組合
金沢漆器商工業協同組合・石川県加賀刺繍協同組合・金沢仏壇商工業協同組合

【取材・撮影協力】

金沢市

つぐまたかこ

【編集制作】

株式会社 金沢倶楽部

金沢伝統工芸の魅力と可能性

21世紀美術館国際アートバイザ
フランソワーズ・モレシヤン



私の専門はファッションやライフ・スタイルで、講演や原稿や取材が中心です。現在、東京の六本木と金沢の卯辰山を往復する生活をしています。ふたつの家を行き来するのはちよつと大変なのですが、私の仕事にとっても、東京の《現代》と金沢の《伝統》、どちらの要素も欠かせません。

みなさんご存知のように、フランスやイタリアはファッションやグルメだけでなく、文化や芸術に関しての大国です。たとえ政治的、経済的な力が弱まる時代があっても、文化芸術が国力となるだけの底力を持っています。私の持論は同様に偉大な伝統文化を持つ日本も、そろそろ、そんな底力を発揮する時代に来ているとい

うことです。

伝統のないところから、新しい時代が生まれてくることはありません。でも、伝統をそのままの形で継承する守りの姿勢から、新しいものは何も生まれません。私が金沢に惹かれるのは伝統が《まだ》日常生活に根付いている点です。《まだ》と言いましたが、伝統が飾り物として死んでいないということです。再生の力に満ちているのです。

先日、テレビの仕事で金沢の若手工芸作家の作品をいくつか目にしました。漆塗りを現代アートに生かす人、桐工芸でお尻を包むような感覚にさせる《座布団》を作る人、九谷焼でアートな絵皿を作る人など伝統に捉われず、伝統にこだわる若い人たちの才能に驚かされました。伝統工芸を《現代に生かす》というとき、考えがちなのが、漆のティッシュ・ボックスとか、友禪のドレスというように現代の日常用品を衣替

えしようという発想です。好き嫌いは別として、それはそれで成功するケースもあるかも分かりません。でも、本質的なところで、それは伝統を現代に生かしたことはなっていないと思うのです。

例えば古九谷の持つ魅力は独特の色使いと、皿の縁模様を作らないデザインの大胆さです。

桐工芸においては木質を生かした曲線の優雅さです。その美しさを現代に生かしてアートにすることも出来るでしょうが、火鉢をワイン・クーラーや花活けとして使うなど、同じ形でも用途としての新しい提案も出来ます。

東京の話題のレストランで、九谷焼のお皿を目にしたとき、新しい高級ホテルで漆や桐工芸の美しいインテリアを目にするとき、私は東京だけでなく世界に向けて発信する金沢伝統工芸の可能性を信じてと同時に、なんだか誇らしい気分になります。

金沢九谷

かなざわくたに
KANAZAWA KUTANI

赤、青、黄、紫、緑の九谷五彩と呼ばれる色で、自然の風物、特に、花鳥風月を精密に描くのが特徴であり、食器や置物、茶器からアイングラス、スタンドライトと幅広いアイテムを誇る。

The tenderness and elegance of the paintings give out a sense of beauty and magnificence.

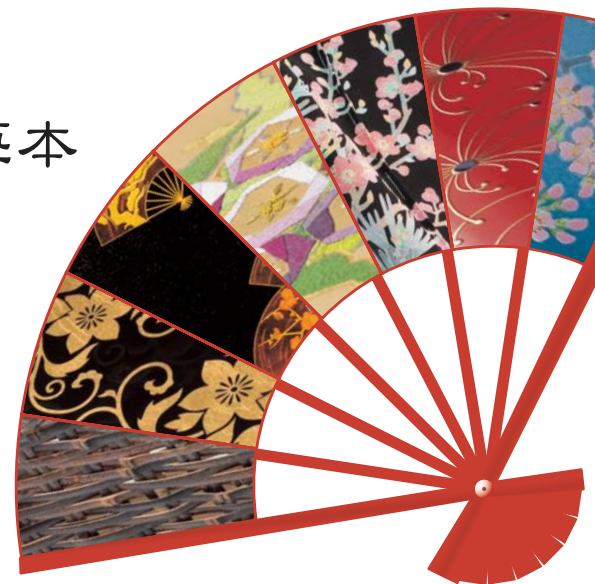


7号別冊

金沢工芸本

Kanazawa Traditional
Arts & Crafts
2008

INDEX



目次

金沢九谷	3
金沢漆器	10
加賀友禅	17
加賀繡	24
金沢仏壇	31
金沢箔	38
希少伝統工芸	45
金沢伝統工芸ショップガイド	52
金沢伝統工芸マップ	56

清水翠東 赤絵金欄手
組湯呑

九谷焼 長寿堂



63,000円 ◆

創業は明治十七年。金沢の中心部・香林坊に店を構える『長寿堂』では、伝統的な逸品から生活に潤いを与える使い勝手のよい作品までを扱い、九谷焼の幅広い魅力を知ることができる。

金沢九谷といえば、九谷五彩と呼ばれる多彩な色使いの上絵。繊細かつ精緻な筆運びと豪華な雰囲気の特徴である。その華麗な表現世界を独自の作風で表現したのが清水翠東氏だ。十三歳で九谷焼絵付師の内弟子となつて以来、約九十年もの間、休むことなく筆を握り続けた。この組湯呑みは、氏には比較的珍しい金欄手と赤絵細描の作品である。渋みのある金彩と的確な筆運びによる正確無比な図案は、さすがの一言に尽きる。



1客 26,250円 ◆

九谷焼窯元 鏑木商舗
堀川十喜作
馬上杯・福龍

今から遡ること約百八十年余、文政五年に九谷焼窯元『鏑木商舗』は九谷焼初の商店として創業した。以来、現当主 鏑木基由氏まで八代にわたり、九谷焼の普及と啓蒙に尽力し、大きな功績を残している。その『鏑木商舗』がおすすめる一品が、堀川十喜氏の馬上杯である。堀川さんは、金沢九谷の色絵技術を受け継ぐ職人の育成を目的に開講された金沢九谷色絵専門塾の一期生。卒業後は福島武山氏に師事し、精緻な筆運びを修練した。図柄は古典的な風雅さも漂わせつつ、どこか現代的な息吹を感じさせるのが特徴だ。馬上杯の題材は風凰と龍。二つを合わせて「福龍」とよび、おめでたい席にうってつけの一品である。

九谷焼 諸江屋

中村 桐佳
花詰 コーヒーカップ



◆ 1客 36,750円

花詰とは、花模様で埋めつくした、九谷焼独特の豪華な画風を指す。四季折々の花を大きささまざまに描くのが一般的で、年中使うことが出来るものが多い。細密な作業と絵画的なセンスが要求されるため、絵の描き手は少なく、作品もそれほど多くはない。その中で、花詰を次代へと継承させるべく取り組んでいるのが色絵塾一期生の中村桐佳氏である。伝統の技法を用いつつ、花詰を現代的に昇華させ、より軽やかな花を描く。色彩も淡いピンクや水色を用い、従来の九谷焼のイメージとは一線を画す。



◆

『野村右園堂』は兼六園坂の途中に店を構える。美術工芸品から業務用まで幅広い分野の九谷焼を扱っている。今回紹介するのは、九谷焼の色絵磁器に中間色を取り入れ、新しい分野を切り開いた名工・藤村豊秋の長男、藤村正美氏の作品。

九谷焼の真髄ともいうべき、上絵の技術を日々追求した氏の作品は、いずれも洗練味と温もりが同居する、独特の世界。この桜の壺と香炉も、九谷焼では珍しい強いピンク色で、花卉一枚一枚を生き活きと描き分けてあり、満開の桜の高貴で妖艶なさまを映している。自由闊達で、彩釉の重厚さが生活空間に豊かな光彩を放つ、名品と呼ぶにふさわしい一品である。

藤村正美
壺、香炉

美術九谷
野村右園堂



片岡光山

美人画皿

片岡光山堂

大正九年に店舗を構えた『片岡光山堂』。その創業者にして、絵付けに非凡な才能を発揮した作家が片岡光山である。明治二十年に金沢に生まれ、四十二年に中畠孝山の工房で絵付けを学び、後に矢口永寿から呉須染付、中国万曆写し、京焼などの作風を習得。四十五年には堀川光山より琳派の画風を学んで光山の号を贈られた。染付や古九谷写し、青手九谷写しなど、数多くの作風をこなし、中でも五彩の色絵が得意だったという。本作にも画力と色彩感覚、そして九谷焼の概念にとらわれない自由な精神が見て取れる。骨董収集が趣味で庭に茶室を建てるほどの数寄者でもあった。粹人が生んだ九谷焼は店頭で見ることができる。



壺

清水翠東

北山堂

『北山堂』では、二階は清水氏をはじめとする作家スペース。一階は日常食器を中心に展開。九谷焼の奥深さが瞭然できる店作りがなされている。

絢爛豪華な九谷焼の本来の魅力
を忠実に受け継いだ清水翠東氏の
作。器の地を直径1ミリ以下の金
で等間隔に埋めていく金粒の技術
は絵付師の真骨頂とも呼ぶべき正
確さである。その技術を磨く傍ら、
日本画の勉強を重ねた氏は、写実
力に優れた作品も多い。花鳥風月、
山水、人物画などを得意とした。
九十歳を過ぎてなお、新しいもの
への創作意欲を見せ、情熱を燃や
したという。職人魂が宿る大らか
なフォルムの壺。本物だけが持つ
力に触れてみたい。



横山一榮
蒔絵綯
長手小箱

横山一榮

二代目・清瀬一光師に師事し、蒔絵の技法を学んだ横山一榮氏の作品。棗、手箱、重箱などの小品に非凡な才能を発揮する期待の作家である。この小箱もすっきりとした角となだらかな曲線が美しい。朱塗りにデザイン化した菊の絵がどこことなくモダンな印象を与え、花芯に用いた螺鈿らでんの控えめな光もアクセントになっている。

漆は水に強く、塗った後は何百年も呼吸しつづけ、劣化することがないと言われている。触れてみると自然素材ならではの優しさといくつもの工程を重ねてようやく仕上がる手仕事の温もりが伝わってくる。思い出の品を納め、大切に保管する宝箱にこれ以上ふさわしい品はない。

金沢漆器

かなざわしっき

KANAZAWA SHIKKI



黒と朱の基本色に美しく緻密な蒔絵が大胆に描かれ、施されているのが特徴であり、加賀藩の武家文化に支えられ、人生の節目節目に用いられて今日に至っている。

Kanazawa Lacquerware is famous for its elegance and beauty.



小紋蒔絵
硯箱

清瀬明人

硯箱は、調度品のなかでもよく知られた品で、精緻な加賀蒔絵を好む人が多い。硯箱は、読んで字のごとく、硯石、筆、墨を入れておく箱のこと。書道用具のほかにも、愛用の筆記用具を入れて座右に置いておけば、日々のよしなしごとを、短冊や色紙を取り上げて、さらさらと一筆書いてみたくなる。漆黒のうるわしい塗り肌、風流な沈金、細やかな螺鈿細工、精緻な筆運びが織り成す繊細な小紋は心を和らげ、机上におけば日常に潤いをもたらしてくれる。

作は清瀬一光氏の長男、明人氏。銜うことはせず、あくまでに基本に忠実が信条。古典的な技法と図案の中にこそ、モダンがあると教えてくれる作品となった。

横山一榮
吉祥蒔絵
爛鍋



金沢漆器の起源は、三代藩主・前田利常が指導者として五十嵐道甫を招聘したことに始まる。五代藩主・綱紀の頃には御細工所の整備、工芸品を収集した百工比照など、漆芸をはじめさまざまな伝統工芸を育成した。大名道具から発展した工芸だけに、今も基本を大切に制作されている。

この「爛鍋カクナベ」もそうした器のひとつで、爛酒を供する際に使うもの。茶事やハレの日、また大切な客人をもてなす際にふさわしい逸品である。職人が魂を込めて作った爛鍋は華やかに装飾され、祝いの心やもてなしの心を伝える。毎日の食卓ではなく、特別な日に、その特別さを尊ぶために用いたい爛鍋である。



三光蒔絵
大棗

清瀬一光

◆ 金沢の代表的な行事の一つに「諏訪神社の三光さん」がある。旧暦七月二十六日の月待ちの行事で、寺町五丁目の諏訪神社で続けられている。この神社からは卯辰山の稜線がよく見え、午前二時前頃に、卯辰山の稜線から月光が三つに分かれて昇り始め、それが合体して見えるので、「三光さん」と呼ばれ、神社そのものを呼び習わすことにもなった。この棗は清瀬一光氏の手になる「三光さん」を描いたもの。現代の名工が金沢人の月に託した世情安泰の思いを掬い取った。「蒔絵とは、つまりは絵」という清瀬氏。金の色調やぼかし、また研ぎ出しの具合に細心の注意を払い、静謐な佇まいを表現した見事な棗である。



能作
鳳凰唐草
蒔絵二段重

◆ 落ち着いた漆黒にごく控えめに平蒔絵が施された品のよい一品。生地が薄いため全体的にシャープで繊細な印象を与える金沢漆器らしいこの三段重は、漆や漆器の製造販売はもとより漆文化の広がりを目指す「能作」がプロデュースしたもの。昔ほどお節料理を作らない現代の生活様式でも使えるようにとの配慮から生まれた。描かれているのは、おめでたい鳳凰だが、軽やかな意匠となっており、普段使いからおもてなしままで幅広く活躍する。また五寸五分と小さめに逃えてあるため、茶事の縁高としても重宝する。季節の風情を映す上生菓子や品のよい黒を背景にいつそう映えることだろう。

加賀友禅

かがゆうぜん
KAGA YUZEN

線の太さ、ぼかし、むし喰いなどの技法と多彩な色使いで、写実的な自然描写による草花模様を特徴とし、その気品のある華やかさと優美さで女性の憧れの着物の地位を得ている。

The traditional five colors called the "Kaga Gosai" have a darker shade than the ones being used in Kyoto Yuzen Silk Dyeings.

金沢の工芸
とびつくす



金沢漆器 棗・皿

兼六園の季節の風景を蒔絵で描いた皿と金沢の風物詩を繊細な筆致で描いた棗。いずれも各月、12ヵ月分の作品が揃っており、一年を通じて、金沢の美しい四季の景色が楽しめる。(左上) 棗「加賀鷹」、(右上) 平棗「金花糖」、(中左) 皿「徽軫灯籠」、(中右) 皿「金沢神社」、(右下) 皿「かきつばた」。

手描友禪

黒留袖 百貫華峰
おしどり古梅・鶯の図



手描友禪

色留袖 柿本市郎
誰が袖



しつとりと重みのある、しなやかで張りのある美しい光沢。香り高い古梅に仲睦まじいおしどりの様子が描かれた、華やかな上品な仕上がり。寿ぎの席にふさわしいこの作品は、加賀友禪の大家にして、常に新しい作風を模索し続ける百貫華峰氏の手になる。

季節の移り変わりを肌で感じ、受け止め、その景色を心の中に取りこみ、心を遊ばせる。独自の美意識と創造力をベースに、加えて、流れるような独特のタッチと色使いで紡ぎだされた心象風景は、日本人の琴線に優しく触れる。どこまでも上品で優しい染めの世界は、いつの時代にも変わることなく、礼節の気持ちいを表現してくれることだろう。

「金沢の街並みが、川が、あるいは風象が、時代の流れを汲み込んで、深みと落ち着きを示してくれる」と自身の作品について語る作家の柿本市郎氏。細かく丁寧な糸目糊の技術を駆使して、繊細かつ力強い図柄を、卓越した色彩感覚と独自の筆致で描写。県立工業高校を卒業後、加賀友禪金丸工房にて、人間国宝木村雨山氏、能川光陽氏の指導を受けた後、独特の染世界を確立した加賀友禪の第一人者である。

この作品は、既婚女性の第一礼装にふさわしく、豪華で気品溢れる仕上がりである。「友禪作家として、お客さんに喜んでもらえる着物を作ることが基本です」と初心も忘れない。

訪問着 白坂幸蔵
菊段取秋草花

加賀友禅の特徴は、なんといつ

ても写実的な草花模様を中心とした絵画調にある。加賀五彩といわれる藍、臙脂、黄土、草、古代紫を基調とする紅系統を活かした多彩調で、線の太さやぼかし、虫喰いなどの表現でアクセントをつけ、自然美をたくみに描き出す。儂いもの、減び行くものに美しさを見出す日本人特有の情趣を解する繊細な感性が加賀友禅には脈々と息づいているのだ。ここに掲載したのは、大胆な構図と特徴ある色使いで、繊細で巧緻な美しさを物語る友禅を創りあげる白坂幸蔵氏の訪問着。多種多様な花々が渾然一体と咲き誇る優美な図柄は、着る人の心を優しく満たし、日本人の品格を呼び覚ましてくれる。

訪問着 大村洋子
雲取茶屋辻

加賀五彩と呼ばれる多彩な色使いが特徴の加賀友禅の世界にあって、黄色がかったグリーンの地色に藍を基調とした図柄が印象的な珍しい訪問着。作り手は、加賀友禅の女流作家としてつとに有名な大村洋子氏。昭和四十五年から加賀友禅の道に入り、四十年弱の経歴を持つ。

絵羽一面に描かれたのは、水辺の風景を細かい文様で表した茶屋辻と風景と薄香の雲取り。そこに控えめな建物の様子と咲き誇る四季折々の花意匠。彩色の中にも女性らしさを取り入れ、筆の太さ、細さと、微妙に色の異なる青色の濃淡によって優しさをたくみに表現した。香り立つような詩的情趣が魅力の意欲作となっている。

金沢の工芸
とびつくす



加賀友禪
額装



(上)成瀬愛子作「茶の花」、(左)友野雅子「鶯草」、(右)「想い出」澤田谿女による額装3種。それぞれに優しい花が描かれた友禪の額はインテリアの一つとして取り入れたい。近年では、着物や帯などに留まらず、ドレスや照明など既存の枠を飛び越えた、新しい作品作りに挑戦している。とはいえ、いずれも加賀友禪らしい清楚な豪華さと気品は守っている。

手描友禪

訪問着 吉田淳子
菱取四君子



洗練された構図に優しい色彩が目を引く訪問着である。図柄は「菊・竹・梅・蘭」の四つの花を描いた四君子。古来から親しまれている縁起の良い古典柄の一つである。縁起物の柄ゆえ、季節を問わずに使用できる重宝な一枚だ。作り手は吉田淳子氏。絵を描くのは本当は苦手、と言うが、数々の展覧会で入選を果たしている実力派である。日々、道端の草木や花のスケッチを欠かさず、作品を発表してきた。地道な創作活動は表現世界を広げ、着る人の姿をイメージしながらモチーフを一つひとつ丁寧に描き込んでいく姿勢は、着物のよさを伝える「本当に着たい着物」を作ることに繋がっている。



今井刺繡
色留袖

892,500円

加賀繡は室町時代初期に、加賀地方への仏教の布教とともに、仏前の打敷、僧侶の袈裟など、仏の莊嚴などの加飾として京都から伝えられた。江戸時代には、將軍や藩主の陣羽織、持ち物の裝飾などにも用いられるようになり、奥方たちの着物にも使用され、気高い美しさが喜ばれた。職人の手で一つひとつ仕上げる、そのあり方を今に伝える『今井刺繡』では、最高齢伝統工芸士であり加賀繡の貴重な技術者、今井フクエ氏をはじめとする職人が繊細かつ華やかな作品を生み出している。色留袖に刺した刺繡もごく控えめなのに目を引く華麗さ。遠い昔、心を弾ませて着物に袖を通したであろう奥方たちの喜びを実感できる。

加賀繡

かがぬい
KAGA NUI




仏前の打敷や袈裟の裝飾技法から発し、やがて陣羽織や着物の裝飾として発達した加賀縫は、今日、精緻で繊細な出来上がりで多くの人々を惹きつけ、印象付けている。

Using delicate techniques the patterns are carefully embroidered thread by thread.

特殊和紙日傘



48,300円 

『小林刺繍』の小林一夫氏は、一九九〇年に、石川県加賀刺繍協同組合の設立に参画。以来、業界の重鎮として加賀刺繍の伝統を今に伝え、新商品の開発や後継者の育成に取り組んでいる。ほかし縫いや肉入れといった特徴ある縫い方が幾種もあり、多彩な表現が魅力である。バッグやストール、名刺入れや袱紗など、日用の品々にさりげなく刺繍を施してきた。手仕事で描く可憐なモチーフが愛着をわかせる品へと昇華させるのだ。最新作、特殊和紙日傘は特別に漉いた強度の強い和紙に水辺に咲く清楚な草花を刺繍した和情趣溢れる一作である。日差しの強い日、すつと傘をさせば、周囲の人にも一服の清涼を与えることだろう。



(上) 60,900円、(下) 78,750円 

サツシユ・ベルト

葎ヶ浦悦子

「昔から手を動かして、ものを作るのが好きでした」と語るのは、加賀刺繍のあり方を常に模索し、今の時代に必要とされる刺繍作品を次々と生み出している葎ヶ浦悦子さん。稠密でエレガントな刺繍は、バッグやドレスなどのファッションアイテムを個性的に演出する。近年人気のサツシユ・ベルトも刺繍を施すことにより、どこにもないベルトに仕上がった。一本は流れるような曲線にペイズリー柄、もう一本は葎ヶ浦さんの代名詞ともいえるカメラア作品である。またモダンスクリーンやカーテンのタッセルなど住空間を華やかに彩る作品も多く生み出したり、漆・金工などの他工芸とのコラボレーションにも意欲的だ。



左馬(額)

加賀刺繍協同組合

15,750円

加賀藩祖、前田利家の妻おまつの方は刺繍が大変上手で、小袖や初着に加賀花丸紋を刺繍し、加賀刺繍を広めたと言われている。天正十二年、加賀と能登の勢力分断を図るべく、能登・押水に佐々成政が攻め入ってきた際、利家は援軍を出し、激戦の結果、勝利した。このとき、おまつの方が利家に贈った陣羽織の内側には、左馬が刺されていたという。武運を祈り「馬の字を逆にした縁起もの」に、一針一針願いを込めたのだ。以来、「右に出るものなし」「左うちわ」にも通じる、幸運を招くものとして伝えられてきた。相手を思う気持ち直裁に伝わるお守りとして人気が高い。



宮越仁美・繡工房 刺繍摺箔・名古屋帯「春気」

185,000円 ◆20

加賀繡に携わって十五年。昨年は伝統工芸士の資格も修得し、自宅の工房で制作に励む日々を送る宮越仁美氏。金沢市工芸展をはじめ、展覧会への出展を継続することで、技術の研鑽を積み、時代を感じながら自分らしい「ものづくりに」に夢中になっている。

春の柔らかな光を受けて、より優しく花は咲く。中でも幼い頃から好きだというチューリップを大人の気持ちで制作したのが「春気」。花のしべ部分に用いたごく少量の砂子箔(金箔)と、葉の輪郭沿いに用いた摺箔したプラチナ箔が春の柔らかな輝きを表現。花は平繡、相良繡、放射線状に伸びゆく葉は菅繡で刺繍が施されている。開花の喜びを表すような瑞々しさである。

金沢 仏壇

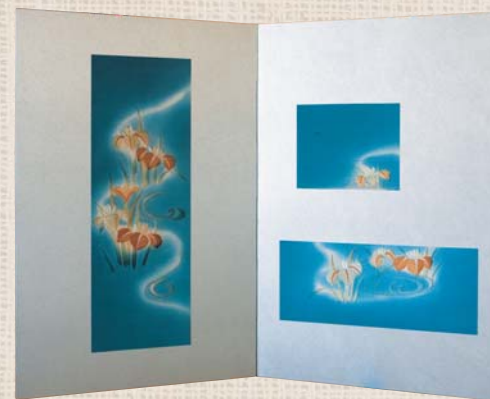
かなざわぶつだん
KANAZAWA BUTSUDAN

浄土真宗の隆盛とともに栄え、人々の精神生活の中心として家々に安置されており、現代では住宅事情に巧みに合わせたミニ仏壇の登場など革新された仏壇も数多く発表されている。

Appearance may be simple but one is sure to be dazzled by its brilliance.

金沢の工芸
とびつくす

加賀刺繍
額装・屏風



伝統の技法を踏まえつつも、新しいものに意欲的に挑戦する『小林刺繍舗』では、現代の生活の中で使用できる作品づくりに意欲を見せる。今、好評なのが、刺繍がなされた着物を額装にしたり、屏風として生まれ変わらせること。職人技による細やかな刺繍はインテリアの一部に彩りを添え、着物にまつわる思い出を次代へと繋ぐ。(下) 屏風、(上) 額装。



金沢仏壇
御東用

金沢仏壇商工業
協同組合

扉の裏面に蒔絵が施され、上、中下に彫刻ほどこそされ、戦後の金沢仏壇の特徴がよく現われている作品だ。蒔絵には人物や花鳥が描かれ、豪華な雰囲気なたたえている。お釈迦様や親鸞聖人の一生を描いた物語蒔絵や、盛り上げ蒔絵、高蒔絵など精緻な技法もふんだんに取り入れられていて、金沢仏壇の隆盛をそのまま物語っているようだ。

江戸、明治、大正、そして戦後と仏壇は支柱が太くなり、加飾が増え、家庭で精神世界に誘う心の道具になって行った。

デザイン的には昭和高度成長期に蒔絵の面積が最大となり、華やかさを増したが、今日では明治期のデザインと融合し、落ち着きを保つ。



金沢仏壇
御西用

金沢仏壇商工業
協同組合

金沢仏壇の醍醐味はその豊かな装飾性にあると言つてよい。

この御西用は、浄土真宗本願寺派の本山様式に合わせて作られたものであり、本山の持つ荘厳な美しさをできるだけ再現しようとした意図がうかがえる。

本山仕様とは各地域の仏壇の特徴を活かしてあるということでもあり、金沢仏壇の伝統美は随所に施されている。

空殿は一重屋根こけら葺きを模倣したデザインで、屋根柱はお東用より二本多く、木製の戸帳形式の彫刻が施されている。本漆塗り磨き蒔絵、総本金箔仕様で戸裏花鳥蒔絵仕上げなどは、金沢仏壇の多彩な伝統工芸の粋が凝縮されたものと言つてよい。





六角
ミニ仏壇

金沢仏壇商工業
協同組合

小型のミニ仏壇は、四角い長方形の仏壇が一般的ではあるが、少し大ぶりになると、形に変化を持たせた種類が出てくる。これは安置する空間に適応しやすい外形デザインが様々に考えられた結果であろう。

六角のミニ仏壇はそれらの種類の中でもきわめて独特の雰囲気を持つもので、ほどよい存在感を放ち、評価が高い。

表戸表通しに磨き蒔絵がほどこしてあり、半間にも合うように考えられている。その表戸は対候性漆を塗り呂仕上げをしてあり、戸裏は金箔を摺漆で貼り、さらにその上からもう一枚金箔を貼ってはげにくくするなど、すみずみまで工夫が行き届いている。



木爪型五福掛
ミニ仏壇

金沢仏壇商工業協同組合

なかなか仏間のない現代の住まいに適合するように新たに制作される仏壇の中でも、ミニ仏壇は底堅い需要を持っている。

おさまりがよく、目立たぬ外観ではあるが、扉を開けると、仏との対話が行きかう場となるように工夫されている。

この五福掛は、五面の掛けを確保した内部を持ち、仏閣の本殿のあり方を反映しているかのようだ。蒔絵は丸粉を使用し、堅牢で剥げにくい仕上がりになっている。

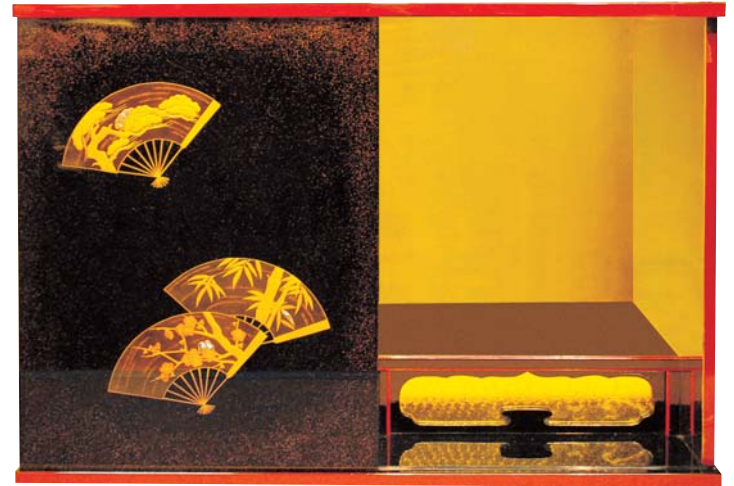
外観は四角とせず厨子型の木爪型とし、デザイン的にも柔らかさと親しみやすさを持たせてある。後年のために組み立て解体・修理ができるように精巧な木地組みで作られている。

金沢の工芸
とびっくす



金沢仏壇商工業協同組合
新デザイン1号

金沢仏壇商工業組合は、江戸から明治時代にかけての技術技法の復刻とデザインの現代との融合という継続事業を進めており、そのより進化した形として、この仏壇が制作された。毎年改良を加えており、例えば、最近では表戸の変形を防ぐため、正目一枚板の削り仕上げとし、チョウバンは木ねじ止めとした。引き戸はリバーシブルとし耐久力を増す両面漆塗り一枚板仕上げで、表戸とのデザイン的な統一性を持たせてある。塗は下地から総ての部品を総本漆下地とし主要部分は呂色仕上げとし、蒔絵は丸粉使用でより堅牢な仕上がりとなっている。



多目的
ミニ仏壇

金沢仏壇商工業
協同組合

多様化するミニ仏壇の一つの方向性を示した作品が、この多目的ミニ仏壇である。

最近はい間のない住まいが多く、そのような住まいにおいて、和室での置き物をイメージして作られている。戸が横にスライドして、右側に位牌や仏像などおまいをする場合は、引き戸を戻して、そうでない場合は、引き戸を戻して置き、写真や花など日常生活の潤いを演出すればよいような作りだ。

仏壇の意匠がうかがわれるのは、引き戸に描かれた扇面の図だけであり、磨き蒔絵の扇面が高度な工芸技術を静かに物語っている。

本漆塗、本金箔仕上げでさらに組立式構造で分解修理がしやすい仕様になっている。



純金箔
世界地図

かなざわカタニ



[部分拡大]

500,000円

加賀藩政の時代から脈々と受け継がれてきた金沢箔。この伝統の技に、新しい視点を取り入れた作品である。一万分の一ミリという薄さの箔は、貼る面積が大きいほど全体の質感を同じにするのが難しい。しかも世界地図の表面は、起伏に富んだ地形そのまま。箔は凸面に沿わせると割れてしまう性質があり、重ねて張らねばならない。受け継がれてきた技術を用い、箔は平らなものに張るといった概念を破ったともいえるこの金箔の世界地図は「古いものと新しいものを融合させていきたい」という老舗の思いの表れだ。「新しい発想は遊び心から生まれることが多い」というが、その余裕ある言葉に、卓越の技に対する自信が伺える。

金沢箔

かなざわはく

KANAZAWA HAKU

江戸時代に箔打ちが始まり、加賀藩の工芸の貴重な素材として発達し、今では国内のほぼ99%を生産するになり、工芸だけでなく、建築や美容分野にまで利用領域を広げている。

Using delicate techniques the patterns are carefully embroidered thread by thread.



箔一
千筋流水
盛上げ皿

31,500円 ◆

「金沢箔を暮らしの中に」という共通する思いを、それぞれの技術で形にしている金沢箔の各社。なかでも『箔一』は、早い時期から新しい試みや技術を次々と送り出してきた。艶を抑えた輝きが印象的なこの皿は、昨年十一月に新商品として発表されたばかり。古くから伝わる千筋技法に金箔を貼り控えめな艶を完成させるためにもうひと手間かける。その上から金粉で一見無造作に入れたような盛り上げを施す。普通なら筋に入り込んだり、曲面に沿って流れたりして、厚みを出すのが難しいのだが、同社独自の技で、存在感のある盛り上げが実現した。箔と粉の微妙な色の違いも楽しめる。華やかで「晴れの日」にふさわしい器である。



梅
蒔絵屏風

金箔工芸
田しま

36,750円 ◆

箔と共に美しい輝きで加賀百万石の文化を彩ってきた蒔絵。その蒔絵を箔の上に施した小さな屏風が、ロングセラーになっている。床の間のある家が少なくなり、屏風を愛でる空間がなくなってきた。現在のライフスタイルに合わせ、「玄関やリビングに置くものを」と約十年前に生み出されたものだ。艶を抑えたマットな質感。金箔を重ねて華美になりすぎない蒔絵の色づかい。折りたためば一枚の板になる、日本らしい用の美。外国の方への贈答品にする人も多いのも納得である。梅のほか、山茶花や牡丹、鉄線の図柄があるのは、ライフスタイルが変わっても、季節感を大事にしてほしいという老舗の願いなのだろう。



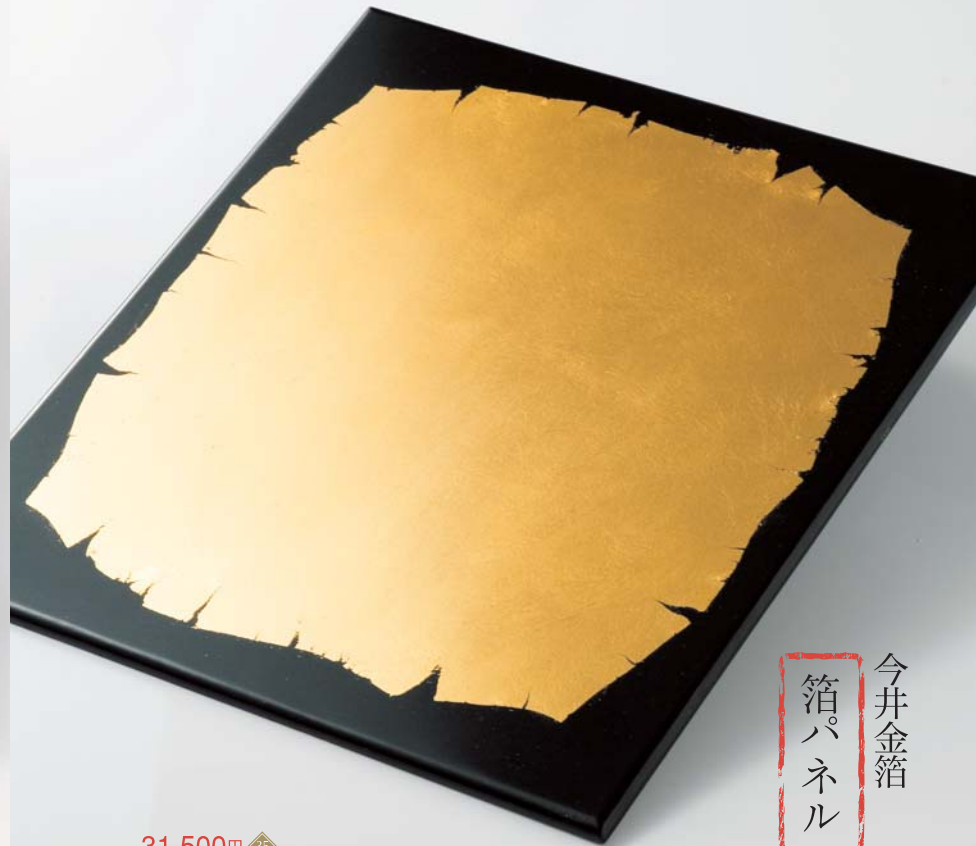
鉄線唐草
木製漆文庫

箔座

31,500円 ◆40

漆黒の漆に金箔の艶。この美しい組み合わせは、漆と箔の技を受け継いできた金沢が世界に誇るべきものである。

漆にしか出せない深い黒。深いまでに金一色の鉄線と唐草は「箔の醍醐味を表現したい」という、ゆるぎない思いから生み出されたオリジナルの「箔座紋様」。よく見ると、漆を盛り上げた唐草の地模様が施されている。金の華やかさに対して、この奥ゆかしい漆の技法。着物の八掛のチラリズムにも通じる日本の伝統的な美意識だ。その一方で、従来の文箱に入らなかったA4サイズが収まる大きさ。側面の曲線が作り出すフォルムもモダン。「使う」工芸品として、手元におきたい逸品である。



箔パネル

今井金箔

31,500円 ◆35

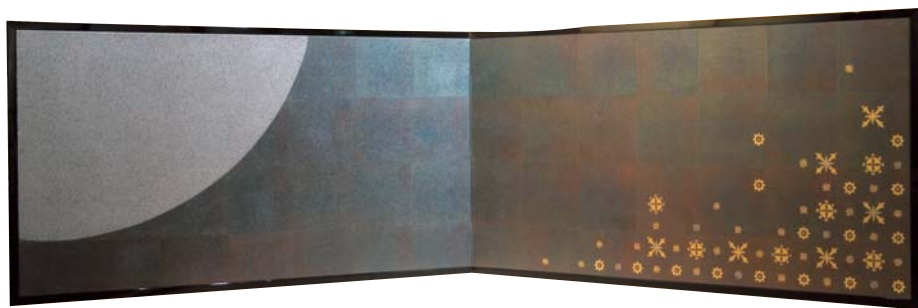
多くの伝統工芸と同じように、金箔箔も変わりゆく暮らしに合う形を模索し、進化し続けている。使い方や様式に工夫をこらすものが多いなか、本品は、堂々と「箔そのもの」を見せることで、最新のインテリアに勝るとも劣らない伝統美の力強さを再認識させてくれる。「七寸二分」と呼ばれる大きさは、現在製造されている金箔で、最大のもの。大きなものほど作るには、もちろん技術を必要とされるが、このようにまわりを切断せず、漆のパネルに貼るのは容易なことではない。これは、寺の修復も手がける職人の手によるもの。その風合いを生かすため、コーティングもしない。真つ向勝負の箔の美しさを堪能したい。

希少伝統工芸

きしょうでんとうこうげい
KISYO-DENTOU KOUGEI

金沢には20種の希少な伝統工芸が脈々と受け継がれており、また、手厚く保護されているが、各種の技法や技術が交流することで新たな工芸の波もが起き始めている。

Very rare crafts of Kanazawa consists from 20 kinds, which make a new movement of Japanese crafts.



金箔工芸
さくだ

風炉先屏風
月と更紗

630,000円 ◆

新しい商品を開発する一方で、伝統的なものを洗練させていく。そのどちらも金箔箔の今後を担う、大切な取り組みである。

箔の屏風に定評のある、さくだ。同社が作り上げたこの屏風は、後者にあたる。茶席に使われる風炉先屏風は、確かに伝統的なものだ。しかしここに技術の粋を集め、洗練させることで箔の新たな魅力が発揮された。青く変色させた「玉虫箔」は月明かりの夜空を思わせる深みのある色合い。左上の月は天平時代から続く、砂子細工という手法で繊細な光を表現している。右下にあしらった更紗模様は、型抜き金の箔。悠久の歴史を感じさせる景色は、茶席だけでなくインテリアとしても秀逸である。



二俣和紙
絹衣

3,800円

金沢の山間部二俣地区は古くより加賀藩の献上紙漉き場として知られ、その伝統が今に伝えられている。本作は石川まゆみ氏制作の手漉き二俣和紙に金箔を漉き込み、透過性のある生地・シルクオーガンを重ねたり、取っ手に真田紐を用いたり、異素材の組み合わせが現代的な試みといえる。

その二俣和紙を手揉みし、亜麻仁油を塗布することで高い撥水性を確保した。

使うほどに、年月がたつほどに深い味わいが出てくるのも魅力的な特徴で、和紙の可能性を広げ、モダンな中にも和を感じる洒落た小物に仕上がっている。



竹工芸
黒竹手さげ花籠

18,000円

金沢は今でも竹林があちこちに点在し、かつては身近に数多くあったことを偲ばせている。その分、竹細工が各所で盛んであり、ざるや籠など生活に欠かせぬ道具類の多くが竹で作られていた。やがて茶道や華道が隆盛となると、花生や茶筌、茶杓が繊細な竹細工の技術で作られるようになり、愛好され、工芸の域に達したようである。

本作品はその竹工芸を現代的な感覚で継承する本江和美氏の手なるもので、バッグにも花入れにも使える汎用性を持つ。黒竹の持ち味をよく捉え、裏表の色合いの対照を風合いにまで高めて制作されている。



桐工芸
三つ引き箆筒

15,750円 ◆

金沢は古くより桐の集散地であり、近隣の山々から雪国ならではの良質な桐を集めていたようである。耐湿性、耐火性に優れ、軽く丈夫な桐は家具類の材料として重宝がられていた。

金沢の桐工芸は江戸期よりあり、焼肌といって表面を焦がし独特な風合いで知られる。軽くて耐火性があるので主として火鉢が数多く作られていた。明治二十年加賀蒔絵師大垣昌訓が桐火鉢の焼肌に蒔絵を施し、工芸品としたことから一躍全国に知られるようになった。現在ではこの作品のような箆筒を始め、花器、衝立、オブジェとしての用途で作られることが多い。



加賀象嵌
象嵌隴銀縞紋花器

588,000円 ◆

加賀象嵌は、刀の鍔や馬の鎧等の武具装飾技術が発表し、洗練されて今日に至ったもので、日本の金工のひとつの到達点を示している。

この作品は、通常の銅合金に銀を加えて鑄造した「隴銀」をベースとし、その堅牢な躯体の上に繊細な線を描いたもので、加賀象嵌の今日の水準の高さを物語っている。

加えて、金と銀をはめ込んで作り込んだ線画は、見る者に緻密なグラデーションや濃淡を感じさせ、金属があたかも生命体のような感覚さえ与えてくれるほどだ。

金沢の工芸
とびつくす

金沢のおもたせ
「花萌」



金沢は人の行き来の際にお菓子や食べ物を手みやげにしたりするよき風習が今でも色濃く残っているところだ。菓子処金沢を支える大きな背景のひとつと言える。

そんな和菓子の中でも一番の華は茶道で用いられること多い上生菓子であり、製作者の光谷慶子氏は、その上生を模して一時代前の古い端裂で針山を作った。



加賀毛針
希美

13,500円

藩政期に武士たちが鮎釣りをするに際して自分たちの毛針をおの自ら作る風習があった。明治時代にそれが庶民に広まって毛針屋が登場。その緻密な美しさで全国的に評判となったのが、加賀毛針である。縫い針から派生し、先端に返しがないので鉤ではなく、針の字をあてる。おしどりやマガモなど野鳥の羽を漆や金箔で接合し、堅固な作りを持ち、姿が美しく風格がある。

本作品は加賀毛針と加賀象嵌との精緻なコラボレーション作品として誕生した。金沢だからこそ出来る希少なアクセサリーとして提案・制作されたものである。

金沢漆器

金沢漆器商工業協同組合

◆ 赤地漆器店 (マップP56)	〒920-0805 金沢市小金町12-2 ☎076-252-8939	9時～19時 日祝祭休
◆ (株)石田漆器店 (マップP57)	〒920-0981 金沢市片町1-7-21 ☎076-261-2364 [E-mail] ishida@po3.nsknet.or.jp [URL] http://www3.nsknet.or.jp/~ishida/	10時～19時 水曜休
◆ (株)能作 (マップP57)	〒920-0962 金沢市広坂1-1-60 ☎076-263-8121 [E-mail] nosaku@kanazawa.gr.jp [URL] http://www.kanazawa.gr.jp/nosaku/	10時～19時 水曜休
◆ (株)和幸 (マップP56)	〒921-8163 金沢市横川7-43 ☎076-247-4455 [E-mail] wako@nsknet.or.jp	9時～18時 日祝、第2、4土曜休

加賀友禅

協同組合加賀染振興協会

◆ 加賀友禅 伝統産業会館 (マップP56)	〒920-0932 金沢市小將町8-8 ☎076-224-5511 [E-mail] info@kagayuzen.or.jp [URL] http://www.kagayuzen.or.jp/	9時～17時 水曜休
◆ 長町友禅館 (マップP57)	〒920-0865 金沢市長町2-6-16 ☎076-264-2811 [E-mail] mail@kagayuzen-club.co.jp [URL] http://www.kagayuzen-club.co.jp/	9時～17時 無休 (年末年始のみ休)

加賀繻

石川県加賀刺繻協同組合

◆ ギャラリー繻鳥 (マップP56)	〒920-0831 金沢市東山1-26-7 (ひがし茶屋街) ☎076-252-2177 [URL] http://www.design-ishikawa.jp/gallery/14/yoshigaura.html	11時～18時 木曜休
◆ 小林刺繻舗 (マップP56)	〒921-8015 金沢市東力1-130 ☎076-291-5150 [URL] http://www.kaganui.or.jp/studios/kobayashi.html	9時～17時 年中無休 (盆8月14日～16日休) ※実演体験は基本的に休み
◆ めいの今井 (有)今井刺繻 (マップP57)	〒920-0967 金沢市菊川2-10-12 ☎076-231-7271 [URL] http://www.kaganui.or.jp/studios/imai.html	9時30分～18時 年中無休
◆ 宮越仁美 繻工房 (マップP57)	〒921-8034 金沢市泉野町1-12-12 ☎076-243-2992 ※商品はクラフト広坂にて取扱。 お誘い等には対応可。電話にて要予約。	不定休

金沢伝統工芸 ショップガイド

お気に入りの逸品を選ぶ時間をゆっくり、楽しむ。
旅の折に訪れたい、伝統工芸のショップガイド。
(掲載店舗は50音順です。)

金沢九谷

金沢九谷振興協同組合

◆ 片岡光山堂 (マップP57)	〒920-0936 金沢市兼六町2-1 ☎076-221-1291 [URL] http://shop-kanazawa.jp/shop.php?shp=151&cald=&calm=w&ml=35	4～10月/9時～18時 11～3月/9時30分～17時 4～10月/無休 11～3月/水曜休
◆ 鍋木商舗 (マップP57)	〒920-0865 金沢市長町1-3-16 ☎076-221-6666 [E-mail] kanazawa@kaburaki.jp [URL] http://www.kaburaki.jp/	9時～22時 年中無休(不定休)
◆ 九谷巴商会 (マップP57)	〒920-0936 金沢市兼六町2-13 ☎076-231-0474 [E-mail] akira23@guitar.ocn.ne.jp [URL] http://shop-kanazawa.jp/shop.php?shp=146&cald=&calm=w&ml=35	10時～18時 無休
◆ (株)九谷焼 長寿堂 (マップP57)	〒920-0961 金沢市香林坊2-4-5 ☎076-221-1822 [E-mail] honten@chojudo.com [URL] http://www.chojudo.com/	10時～19時 水曜休
◆ 九谷焼 諸江屋 (マップP57)	〒920-0981 金沢市片町1-3-22 ☎076-263-7331 [E-mail] kutani@moroeya.com [URL] http://www.moroeya.com/	8時～20時 水曜休
◆ 黒龍堂 (マップP57)	〒920-0853 金沢市本町1-5-3 リファーレ1F ☎076-221-2039 [E-mail] kutani@kokuryudo.com [URL] http://www.kokuryudo.com/	9時～19時 火曜休(祝日を除く)
◆ 順風堂 (マップP57)	〒920-0904 金沢市下近江町40 ☎076-231-2700 [URL] http://www.junpudo.co.jp/	9時～18時30分 火曜休 (祝日の場合は営業)
◆ (有)野村右園堂 (マップP57)	〒920-0936 金沢市兼六町2-3 ☎076-231-5234 [URL] http://shop-kanazawa.jp/shop.php?shp=139&cald=&calm=w&ml=35	9時～18時 木曜休
◆ 北山堂 (マップP57)	〒920-0962 金沢市広坂1-2-33 ☎076-231-5288 [E-mail] office@hokusando.co.jp [URL] http://www.hokusando.co.jp/	9時30分～18時30分 月曜休
◆ 松本佐一齋 (マップP57)	〒920-2321 白山市吉野春29 ☎0761-95-5848	不定休 ※要望により いつでも営業(要予約)

金沢箔

石川県箔商工業協同組合

◆ (株)今井金箔 (マップP57)	〒920-0968 金沢市幸町7-3 ☎076-223-8989 [E-mail] info@kinpaku.co.jp [URL] http://www.kinpaku.co.jp/	9時30分～18時 日祝休
◆ かなざわカタニ (マップP57)	〒920-0902 金沢市尾張町2-16-80 ☎076-263-6111 [E-mail] office@katani.co.jp [URL] http://www.k-katani.com/	9時～17時 無休 (12月30日～1月3日休)
◆ (株)金銀箔工芸 さくだ (マップP56)	〒920-0831 金沢市東山1-3-27 ☎076-251-6777 [E-mail] kinpaku@goldleaf-sakuda.jp [URL] http://www.goldleaf-sakuda.jp	9時～18時 無休
◆ 金箔工芸 田じま (マップP57)	〒920-0855 金沢市武蔵町11-1・2F ☎076-263-0221 [E-mail] info@tajima-kinpaku.co.jp [URL] http://www.tajima-kinpaku.com	10時～17時30分 火曜休 (夏季、冬季休あり)
◆ (株)箔一 (マップP56)	〒921-8061 金沢市森戸2-1-1 ☎076-240-0891 [E-mail] info@hakuichi.co.jp [URL] http://www.hakuichi.co.jp/	9時～18時 年中無休 (1月1日は休館)
◆ 箔座 (マップP56)	〒920-0843 金沢市森山1-30-4 ☎076-251-8941 [E-mail] info@hakuza.co.jp [URL] http://www.hakuza.co.jp/	9時～18時 年中無休

希少伝統工芸

◆ 金沢桐工芸 岩本工房 (マップP57)	〒920-0845 金沢市瓢箪町3-2 ☎076-231-5421 [E-mail] http://www.kirikougei.com/cgi/toiwase/form.htm [URL] http://www.kirikougei.com/	10時～18時30分 火曜休
◆ 金沢・クラフト兼六 (マップP56)	〒920-0936 金沢市兼六町2-20 石川県観光物産館2F ☎076-234-9101	11時～17時(日曜は10時～)火曜休 (8月は無休)年末12月29～31日休
◆ 金沢・クラフト広坂 (マップP57)	〒920-0962 金沢市広坂1-2-25 金沢能楽美術館内 ☎076-265-3320 [E-mail] info@crafts-hirosaka.jp [URL] http://www.crafts-hirosaka.jp	10時～18時 月曜休(祭日の場合は翌日休) 年末年始12月29日～1月1日休
◆ 桐漆工芸 上坂 (マップP57)	〒920-0936 金沢市兼六町2-15 ☎076-264-1511	10時～17時 火曜休
◆ (有)津田水引折型 (マップP56)	〒920-0935 金沢市石引2-2-5 ☎076-224-9023 [E-mail] info@mizuhiki.jp [URL] http://www.mizuhiki.jp/	10時～18時 (土曜は14時まで) 日祭休
◆ 広瀬桐工芸 (マップP57)	〒921-8022 金沢市中村町30-20 ☎076-241-2544	8時～17時 土日祝休

その他

◆ 大樋焼本家十代長左衛門窯 大樋美術館 (マップP56)	〒920-0911 金沢市橋場町2-17 ☎076-221-2397 [URL] http://www.ohimuseum.com/	9時～17時 無休
◆ 金沢能楽美術館 (マップP57)	〒920-0962 金沢市広坂1-2-25 ☎076-220-2790 [URL] http://www.kanazawa-noh-museum.gr.jp/	10時～18時 月曜休(祝日の場合は翌日休) 年末年始休

金沢仏壇

金沢仏壇商工業協同組合

◆ (株)池田大佛堂 (マップP57)	〒920-0854 金沢市安江5-7 ☎076-222-5550 [URL] http://www.kaga-noto.or.jp/Noren01/index1.html	9時～18時 火曜休
◆ 今村仏壇店 (マップP56)	〒921-8055 金沢市西金沢新町178-1 ☎076-249-1366	9時～19時 木曜休
◆ 卯野屋仏壇店 (マップP57)	〒920-0854 金沢市安江町15-44 ☎076-263-9570 [E-mail] nobuhikouno@ezweb.ne.jp [URL] http://www.shop-kanazawa.jp/shop/unoyabutsudan	10時～18時30分 火曜休
◆ (有)大竹仏壇製作所 匠楽 (マップP56)	〒921-8046 金沢市大森町10街区1-9 ☎076-244-4069 [E-mail] otkdento@rudy.ocn.ne.jp [URL] http://www.kanazawa-cci.or.jp/easycoupon/cgi-bin/detail.cgi?id=0045&rand_text=0039,0078,0036,0097	9時30分～20時 第2,4火曜休
◆ 金沢仏壇 商工業協同組合 (マップP57)	〒920-0855 金沢市武蔵町8-2 ☎076-223-4914 [E-mail] info@kanazawa-butsudan.or.jp [URL] http://kanazawa-butsudan.or.jp/	9時～17時 土日祝休
◆ 北村仏壇店 (マップP56)	〒921-8815 野々市町本町5-4-7 ☎076-248-3362	8時～18時
◆ (株)澤田仏壇店 (マップP57)	〒920-0854 金沢市安江町3-15 ☎076-221-2212 [URL] http://www.kanazawa-cci.or.jp/shinise/stores/sawada.html	9時30分～18時30分 火曜休
◆ 塗師岡仏壇店 (マップP56)	〒920-0843 金沢市森山2-1-29 ☎076-253-2201	8時30分～18時 木曜休
◆ 塗師岡仏壇店 (マップP57)	〒921-8031 金沢市野町1-2-36 ☎076-241-0795 [URL] http://www.kanazawa-cci.or.jp/shinise/stores/nushioka.html	平日10時～18時 土日祝13時～18時 日曜休
◆ はやし仏壇店 (マップP57)	〒921-8033 金沢市寺町5-5-17 ☎076-241-8690	9時～18時 日曜休
◆ 三島仏壇 (マップP57)	〒920-0862 金沢市芳青2-4-2 ☎076-221-8015	9時～18時 日曜休
◆ 森田仏壇店 (マップP57)	〒921-8031 金沢市野町3-2-38 ☎076-241-1375 [URL] http://shop-kanazawa.jp/shop.php?shp=453&cald=&calm=w&ml=16	8時～20時 不定休
◆ (有)山田仏具店 (マップP57)	〒920-0854 金沢市安江町13-32 ☎076-221-2306 [E-mail] info@yamadabutsuguten.co.jp [URL] http://yamadabutsuguten.co.jp/	9時～19時 火曜休(祭日を除く)
◆ (株)米永仏壇 (マップP56)	〒920-0058 金沢市示野町1-10 ☎076-221-1930 [URL] http://w2223.nsk.ne.jp/yonenaga/	9時～18時 木曜休

